

第13回飛島クリーンアップ作戦

速報

風薫る5月、田下海岸で心は一つ！回収量は過去最高！

豊かな自然に恵まれ絶好の観光スポットとなっている山形県唯一の離島「飛島」。一方で大量の漂着ゴミが流れ着き、環境悪化が深刻となったことから、この課題を解決しようと始まった飛島クリーンアップ作戦も回を重ね、13回目を迎えた。官民産学の多様な協働のもと24時間テレビチャリティ委員会の協賛を受け、5月25日（土）、飛島西海岸で開催された。

今年の会場は2年ぶりの田下海岸。県内外から参加したボランティア、実行委員、島民等総勢およそ240名が海岸に下り立った。冬の荒天で打ち寄せられたプラスチック類や発泡スチロール、漁網やロープなどが漂着し、美しい草木の緑と海の青には似つかわしくない人工的な色彩の帯をなしていた。

本来の自然の美しさを取り戻そうと、参加者は海岸線に沿って散らばり、漂着ごみの回収に取りかかった。天気に恵まれ、作業をしていると汗がにじんだ。

ゴミ袋はどんどんいっぱいになり、島民が出してくれた漁船で次々に法木港へ搬送された。2時間半で集めたごみはトンパック66袋、推定で約8.7トンとこれまでで最も多い量となった。

清掃終了後には漁協女性部の皆さんが腕を振るった、ほ



つけのつみれ汁、アラムの煮つけ、イカ焼きといった飛島の料理に舌鼓を打った。

芝生公園そばの「カフェスペースしまかへ」では、これまでを振り返る写真展が開かれた。クリーンアップ作戦開始当初は地面も見えないほどのゴミで埋め尽くされた海岸が年々綺麗になってきた様子を目で見ることができ、清掃活動の成果を実感することができた。

五月最後の土曜日。今年もまた、飛島からさわやかな風が吹いた。



【参加者の声】

- 飛島と漂着ごみの現状を体験を通して知ることができた。（20代男性）
- ごみ拾いをして自分の意識が変わった。自分自身出しているごみも減らしていくべき（40代男性）
- 少しでも飛島がきれいになって良かった。お役に立てたら嬉しく思います。（40代女性）
- 何よりも終わった後のすがすがしさが印象に残りました。（60代男性）
- 職種、年齢問わず一体となってクリーンアップに携わること、汗をかきながらすばらしいと思う。（40代男性）

●この事業は「24時間テレビ・山形放送」の協賛を受けて実施されました●

●実行委員会構成団体●

NPO法人庄内海浜美化ボランティア
NPO法人パートナーシップオフィス
NPO法人美しい庄内
一般社団法人山形県産業廃棄物協会
藻場再生研究クラブ
東北公益文科大学
飛島コミュニティ振興会
海上保安庁酒田海上保安部
酒田市
山形県庄内総合支庁
●協賛●
24時間テレビ・山形放送
●協力●
株式会社みなと

